2022.12

信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教育学部 附属長野小学校

１年１組

冒険しよう！発見しよう！
～ドキドキ・ワクワク・ハラハラ～

「レンガでつくりたい　みんなのべっそう」

春のこいのぼり、夏の七夕、秋のお月見と、季節ごとに楽しみを見つけて存分に楽しんできた１年１組。冬を前に次の楽しみとして決め出したのは、みんなのべっそうをつくることです。秘密基地でもなく、お家でもなく『べっそう』というところに特別感があります。入学してから全校のみんなが快く動物さんたちにかかわらせてくれたり、声をかけてくれたりすることが嬉しく、自分たちのべっそうにもみんなが来られるようにしたいという願いを込め「みんなのべっそう」となりました。『三匹のこぶた』のお話にあるように、一番丈夫な素材であろう『レンガ』でべっそうをつくることにしました。そのレンガも土と水と藁を混ぜて型取るというように手づくりしています。初めはクランキーチョコのようなレンガでしたが、つくり続けていくうちに職人さんがつくるようなレンガへと進化していきました。１年１組のレンガ・べっそうづくりのこれまでの歩みをお伝えします。

１０月２７日、信州大学教育学部にある築約１３０年の赤煉瓦館の見学へ行きました。Ｕさんは、レンガとレンガのつなぎに注目していました。「何でくっついているのかな」と指でなぞり顔を近づけてよく見ていました。Ｍさんは「どのくらい丈夫なのか」ということを確かめようとしていました。赤煉瓦館の壁を両手で押してもびくともしない働き返しに「本当に丈夫なんだ」と感じているようでした。教育学部の齊藤先生から赤煉瓦館に関わるお話をしていただいた後の質問コーナーでは、Ａさんが「はじっこはどうなっているんですか」Ｋさんが「どうしてイギリス積みなんですか」など聞く姿がありました。それぞれの見るポイントは、こだわりとなって、見学での学びを深めているようでした。その後は、図工科の大学生によるワークショップでアーチづくりに挑戦しました。この日のために大学生も土からレンガをつくり、アーチづくりの研究をしてくれていました。レンガをアーチ状に積み、隙間にホイップ（どべ）を入れ、かまぼこ型の型を抜くと…大成功！レンガのアーチが完成しました。その時のドキドキ感やハラハラ感、そして喜びをその場にいるみんなと分かち合うことができました。

大学での見学や体験を終えた子ども達は、知識も技術もパワーアップし益々「みんなのべっそう」づくりに邁進いていきました。そして、１１月２日（水）ついにＲさんの手によって一つ目のレンガがべっそう予定地に置かれました。大学でのワークショップで大学生から「一段目を平にすることが大事だよ」とアドバイスをもらっていたので、地面を平にするところから始めました。落ちた葉を集めて取り除き、地面の土を削ったり盛ったりしながら平にしていきました。様子を見にきたＹさんから「これって何積み？」と聞かれるとＲさんは「フランス積み」と答えました。隣の班もフランス積みにするという話が出るとＮさんは「じゃあ私たちはイギリス積みにする？」とＲさんに問いかけました。すると「嫌だ！」と大きな声が返ってきました。フランス積み（フレミッシュ積み）にこだわりながら、黙々とホイップ（どべ）をレンガの間に流し込んでいくＲさん。大切なレンガをいたずらされないように呼びかけの看板（ポスター）を作っていたＨさん。重たいレンガをいっぱいに抱えて運んでいたＮさん。一人ひとりが何をすべきか考えながら行動しつつ、「みんなのべっそう」に思いを寄せていました。

１年１組のみんなのべっそうづくりは、これからも続きます。

2022.12

「ずっとそばにいたい　あさがおさん」

夏には１日に２００個以上の花を咲かせた朝顔トンネルの朝顔ですが、11 月頃には落ちた種から新たに芽を出し小さな花を時々咲かせることはあるものの、種をつけ、じっとそこで１組の子どもたちの様子を見守り続けていました。少しずつ冬の足音が近づく中、朝顔さんとのこれからについて考え合いました。

みんなで５月 16 日に出会った朝顔の赤ちゃん。朝顔との思い出を語り合うと、「植えた時はワクワクしたけど、すぐに生まれなくてちょっぴり悲しかったな」「芽が出たときはすごく嬉しかったよ」「朝顔トンネルを作るときに、ボーボーの草を抜いたり土を掘ったりしたな」「たたきぞめをしたり色水を作って楽しかったな」など、たくさんの思い出が蘇ってきました。改めて振り返ってみると、いくつもの困難を乗り越えた朝顔だったなと思います。芽が出ても土の状態がよくなく弱っていく朝顔。虫か何かに葉や花を食べられる朝顔。強風や暑さに耐える朝顔。その時々で真剣に考え工夫してみんなで朝顔を守り抜いてきました。そんな、強くて儚い朝顔が本当に愛しいものであったなと思います。その思いを子どもたちと共有しながらも、これからのことについても考えていきました。「これから朝顔さんと、どうしていこうか」と投げかけると、まずＭさんは「朝顔さんは、ずっと頑張ってきたから、ありがとうって言いたい。朝顔さんは、ずっとここにいたから、他にも見たい景色があるんじゃないかな」と話します。続けて、「べっそうに朝顔を咲かせたい」という声も聞こえてきます。するとＨさんが、「ずっとそばにいたい」と言いました。しかし、「どうしたらずっとそばにいれるのだろうか」という疑問も出てきました。そこにＵさんが、「朝顔のつるでリースを作って、べっそうの飾りにしたいな。そうしたら、ずっとそばにいられるよ」と話しました。私には全く思いもつかない発想に、嬉しさと驚きと楽しみが一気に押し寄せました。「いいね！」「それなら、ずっとそばにいられるね」と周りの子も賛同します。Ｕさんの「ずっとそばにいたい」という思いは、朝顔さんのこれまでの物語があったからこそだと思いました。

それは、種を植えて 10 日後の５月 27 日朝のこと。数個の芽が出始めたこの日は、朝から雨でした。Ｕさんは、そっと朝顔さんに傘を差していました。芽が出たばかりの朝顔さんにとっては、この雨が痛くないかな、寒くないかな、大きく育ってほしいなという思いがあったのではないかなと想像します。７月 22 日、雨がまだ少し残る朝のこと、「うーーーん、パア！」と言いながら傘の花を咲かせていきます。あさがおさんがひとつ咲くとまた違うところへ駆けて行って傘の花を咲かせることを続けました。Ｕさんのように、一人一人朝顔さんとの半年間の思い出があるのだと思います。これまで毎日取り組んでいるレンガでのべっそうづくりに、これまで共に過ごした朝顔さんがリースに変身して加わることで、さらに特別な場所になるような気がします。

「秘密の種の正体は･･･大根！ 240本！」

9月 12 日に秘密の種を蒔きました。12月5日に畑で大きく育ったそれを抜いてみると…大きい大根が出てきました！